

User Report

ユーザーレポート

～0の証明～

貴重品輸送

ALSOK 警送近畿支社

ドライバーの「心身の変化」対策に ACM300 を導入。 部署の垣根を超えて、活用への関心を集め始めています

ビル・建物の警備から高齢者の見守りまで、様々な形で社会の「安全・安心」を支えるALSOK。企業・店舗の貴重品を管理・輸送する警送部門（警送近畿支社）では、ドライバーの加齢に伴う自己注意喚起にACM300をご導入いただいています。

ご利用機器



PC、ステアリング、ペダル、プリンターがセットになった卓上型ドライビングシミュレータ「ACM300」



おう」というねらいです。警送近畿支社の場合、50歳代の比率はまだ高くありませんが、今後増えていくことは予想されますから、長期的予防策の一環でもあります。

導入の背景

福岡勤務時代に「IT点呼」導入。その効果を踏まえた、警送近畿支社での新たな取り組み

柏原：以前私が福岡にいた時に東海電子のIT点呼を導入し、「きちんとした機器を使う」ことでドライバーの意識が変わることを実感しました。旧来の簡易的なアルコール検知器よりも、測定結果が正確でごまかしがきかない。そして結果が印刷されて残る。すると「検査しているという意識」がドライバーに芽生え、「勤務前日はアルコールを控えよう」といった動きが生まれたのです。その後、異動した警送近畿支社でも同機種を導入しました。先日東海電子のセミナーに参加したときに、また新たな衝撃が。ACM300のデモを見て、普段は絶対に経験してほしくない交通事故を疑似体験できる。やはり座学だけで一方的に聴くよりも、実際に体験して学ぶことのほうが大きいはず、とすぐに上司に導入提案を行いました。

多田：ちょうどその頃、軽微な車両接触が数件続いたこともあり、調査してみると、ドライバーの多くが50歳代というのが気になりました。加齢に伴う心身の変化を理解せず、若い気持ちのまま運転しているのではないかと、

そこでACM300導入を機に、50歳以上は毎年ACM300による診断を受けてもらうよう社内制度を改めました。

「いかに自分の反応速度が鈍ってきているのか気づいてもら

工夫点と今後の展開。3名一組で他者の運転からも学ぶ定期的な疑似体験で安全意識の醸成を

柏原：適性診断とは別に、危険予測トレーニング(KYT)にもACM300を活用し始めています。当社の場合、30～40名で編成される「隊」ごとに指揮系統が分かれており、各隊長からの指名を受けて3名一組で実施。一人ずつ順番にハンドルを握って運転し、他の2名は大型スクリーンでその映像を見る、というスタイルで行っています。企画者の立場で言うと、「トレーニングだからぜひ事故に遭遇し、危険因子を肌で感じてほしい」というのがあります。ですので受講前に伝えることは、普段とは真逆ですが「アクセルをしっかり踏んでください」。実際に事故の場面では、他の2名からも驚きの声が上がります。研修後は「経験できてよかった」と言ってくれます。仲間と楽しみながら疑似体験することで、「何が大切か」に気づいてほしい。それが願いですね。

多田：今はまだ警送部門内が中心ですが、営業部門などからも「ぜひ使わせてほしい」という声が上がります。少しずつ実績も出始めてきています。

柏原：運転技能の変化は加齢に関係ない部分もありますから、年齢に関係なく、できるだけ定期的にACM300を使えるようにしていければと思っています。自分では気づかない変化を数値で把握できるようになれば、個々の意識もまた変わってくるでしょう。

もちろん今後は、他の拠点に持っていき、そこでも安全対策に役立てていく予定です。持ち運びができるのもACM300の利点ですから。

取材後記 ACM300導入前、適性診断(一般診断)は休日出勤扱いで社外の機関に外向かせていたとのこと。社内ですべて受診できるようになれば、社員の「休日」を確保することにも繋がる。柏原氏の上司はそこにも大きな期待を寄せているようだ。

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

導入のねらい

加齢変化への気づき・自己把握

工夫点

3名一組での受講
仲間とともに体験を通して学ぶ

副次的メリットと今後の展開

一般診断社内実施:社員の負担軽減

他拠点での活用(持ち運べる利点)

取材ご協力

ALSOK 警送近畿支社

警備第一部長 柏原 重雄 様

警備第三部長 多田 真 様

〒537-0001
大阪府大阪市東成区深江北3-8-23
TEL 06-6976-1100 FAX 06-6976-7755

